

北方浄土の山里を行く

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



北山奥地 イラストマップ

平安京より北方の山並は北山と呼ばれています。そのなかでも鞍馬より北にある一帯は、平安時代には北方弥勒浄土の地とみなされ、それにちなんだ遺跡も少なくありません。今回、この京都市の最奥地にある遺跡を紹介します。

北山奥地の歴史 この地域が歴史に登場するのは平安時代からです。平安時代後期から鎌倉時代にかけて、末法浄土思想の流行による御堂や経塚などが霊地を選んでつくられました。鎌倉・室町時代には、法成寺・三宝院などの荘園となり、多くの相克を繰り返しました。また、戦国時代には近江などとの軍事上の要路としても重要視されました。

ここでは、若狭街道の一つである鞍馬・花背峠から大見・久多周辺に沿ったルートでたどって見ることにします。

①鞍馬寺経塚群



銅製の宝塔形経筒 鞍馬寺蔵

平安時代初期に創建された鞍馬寺は、本尊を毘沙門天像とする由緒ある寺です。本堂の背後の山腹で、明治から昭和にかけて、経塚

とそれにとまなう遺物が発見されました。遺物には、銘文のある経筒のほか、銅製宝塔、金銅三尊像、独鈷杵、毘沙門天像の懸仏、合子などがあります。総数は300点を越え、一括して国宝に指定されています。経筒などに年紀のあるものは、古くは保安元年（1120）から永正十六年（1519）のものまであり、経塚が連綿と営まれてきたことがわかります。

②花背経塚群



経塚が発見されたと思われる山の平坦部

鞍馬をさらに北上すると花背峠につきます。すぐ近くにある旧花背峠の北方の山腹では経塚群が見つかっています。大正十年と昭和二年に計7基が発見され、いずれも小石室を構築し、割石で覆っているものでした。経塚には仏像や仏具なども埋納されていました。

③花背福田寺



山門の傍らには経塚に関する石碑が建つ

この寺の創建時期は明らかではありませんが、叡山三千坊の一つといわれ、平安時代後期には北方弥勒浄土の地にある寺として信仰を集めたといえます。福田寺の「黄

金仏」と称される金銅製の毘沙門天像は花背経塚からの出土品で、納められていた銅製の筒形厨子には仁平三年（1153）四月の銘がありました。これらは現在、京都国立博物館に常設展示されています。

④大見吸江院



大見川支流に沿って石垣が見える

花背峠から尾根沿いに北に進むと大見の里に着きます。ここには、貞享二年（1685）に建立されたといわれる、曹洞宗慈眼寺の末寺である吸江院の基壇が残っています。吸江院は清涼山とも呼ばれ、『大悲山峰定寺縁起』には大悲山の開祖である三滝上人（観空坊西念）と思われる人物が、清涼山で「化道」を行っていたと記されています。その上人の墓も大見村にあると伝えられ、同じ清涼山の号を持つ吸江院が平安時代の寺域を踏襲している可能性があると思われます。

⑤大悲山峰定寺



寺周辺には豊かな歴史的自然環境が残る

大見からチセロ谷に沿って北上すると峰定寺に至ります。仁平四年（1154）に三間の堂を造営したのが始まりです。造営には鳥羽上

皇や信西（藤原通憲）、それに平清盛も深く関わっています。舞台造りの本堂、阿伽井屋、仁王門の建物などは重要文化財です。

⑥久多志古淵神社



本殿は京都市指定有形文化財

大見の里を尾越・八丁平へとたどり、関所跡ともいわれているオグロ坂峠を降りると、そこは久多の里です。ここに志古淵神社があります。千日回峰行の祖、相応が9世紀の後半頃、葛川明王谷で念じていると志古淵大明神なる翁が現れ、「汝は不動明王の化身。領地を差し上げよう。弥勒出現までの仏法を守護する」と言い残し、姿を消しました。以来、志古淵大明神は相応によって開創された明王院を含む一帯の地主神として奉られてきました。同名の神社は安曇川沿いの百井・大見・尾越などに点在していますが、なかでも久多の志古淵神社は最大のものです。

（津々池 惣一）

現地へのアクセス

鞍馬寺／叡山電鉄出町柳駅から鞍馬線
鞍馬駅下車すぐ

花背経塚跡／京都バス広河原行き
旧道別れバス停付近

花背福田寺／京都バス広河原行き堂ノ前
下車、拝観はできません

大見吸江院跡／バス路線はありません
大悲山峰定寺／京都バス広河原行き

大悲山口下車、東へ2km
久多志古淵神社／京都バス朽木村行き

葛川梅ノ木下車、西へ9km

今回のご案内で、鞍馬寺の他はいずれも交通の便がよくありません。山岳域のため、足元には充分ご注意ください。